

ご挨拶

尊敬する田中愛治早稲田大学総長、国際担当理事である弦間正彦教授、そして韓国からお越しく下さいました勝明浩・高麗大学校友会長、金東元総長をはじめ、日韓両国のご来賓の皆様、このように栄えある場を設けていただき、心より御礼申し上げます。

あわせて、学生の留学や教職員間の交流など、多岐にわたり学務運営にご尽力くださっている両校関係者の皆様に、この場をお借りして改めて深く感謝を申し上げます。

本日授与いただきました名誉博士の学位は、皆様からの温かいご信頼の証であり誠に貴重な栄誉と存じ、深く感謝申し上げます。

早稲田大学は現在、創立 150 周年を見据え、「学問の独立」を基盤に、教育はもとより多様な研究活動を通じて、世界と人類に大きく貢献するために不断の努力を重ねておられると承知しております。私もまた高麗大学の同窓生として国際交流の拡大に努めてまいりました。そのため、この精神に深く共感し、両校の協力により一層の発展が実現することを心から願っております。

振り返りますと、私は 1978 年に LG 商事に入社し、約 15 年間、米国、日本、シンガポールなど世界各地で商社マンとして経験を積んでまいりました。とりわけ 1990 年代初頭には日本地域の本部長を務め、日韓経済協力の現場を直接体験することができました。

当時、世界はいまだ冷戦の影に覆われ、日本はオイルショック後の回復期にあり、韓国もまた経済発展の途上にございました。両国関係は経済のみならず、若者や市民の交流を通じて発展しつつある、まさに重要な転換点にあったと存じます。

特に 1992 年には、LG 商事日本法人の代表として約 2 年間東京に勤務し、公私を問わず多くの日本の友人と深い友情を育むことができました。当時、私の家族は広尾に居住し、近隣の方々と温かな交流を重ねました。妻はいまなお当時知り合った日本の友人と親しい関係を続けております。さらに 1994 年には LG 証券国際部門の役員として、再び日本市場とのご縁をいただくことができました。

これらの経験を礎に、私が LS グループを経営する立場となっても、日韓関係が外交・安保問題で困難を抱えていた時期において、ソウル東京フォーラムの理事として、また日韓財界会議やビジネスサミットを通じて、両国ならびに東北アジア諸国の協力関係を強化する「民間外交官」としての役割を担ってまいりました。

その歩みを高く評価していただき、高麗大学経済人会から「経済人大賞」を、また韓国経営者協会から「最も尊敬される韓国経営者賞」を賜るという栄誉にも浴することができました。

さらに 2021 年に韓国貿易協会会長に就任して以降は、東京および大阪の経済同友会との協力関係を構築し、「日韓交流特別委員会」を新設して、日本の政財界主要関係者との架け橋となり、両国企業人の経済協力を促進する役割を果たしてまいりました。

一方、早稲田大学と高麗大学も学術交流協定を契機に、文化・スポーツを含む幅広い分野で交流を拡大し、それぞれの研究・教育ネットワークを活用して、日韓両国の学生がグローバルな資質を備えた次世代のリーダーへと成長できるよう積極的に協力しておられます。

本日、私が早稲田大学より名誉博士の学位を授与いただきましたことは、両校の信頼と交流を象徴する意義深い出来事であり、さらに日韓両国の模範となるリーダーへの皆様のご期待が込められているものと受け止めております。その重責を痛感し、心を新たに、身の引き締まる思いでございます。

この度賜りました学位に恥じぬよう、今後も強い使命感を持ち、日韓両国の活発な交流と発展のために全力を尽くしてまいります。

改めまして、皆様のご厚情と温かいご歓待に心より御礼申し上げます。

結びに、本日ご臨席下さいましたすべての皆様のご健勝とご発展を祈念するとともに、早稲田大学と高麗大学の友情が今後ますます深まりますよう、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

誠にありがとうございました。